

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	文化会館共催事業	会計	一般会計	事業No.	798	施策順No.	27-011
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	文化会館		
施策	27 文化芸術の振興			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)	105691	106630	105811	105036	107000	
	意図	①多様で質の高い文化芸術活動を鑑賞できるようにする。②実行委員会が、事業全般を運営する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	鑑賞者数	863	823	837	1260	1523		A
	実行委員数			31	28	28		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	市民主体の実行委員会の積極的な取組みにより目標を達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田文化会館の自主事業以外に、市民が多様な文化芸術を鑑賞できる機会の充実を図るためにコンサート等を共催する。現在、「萩元晴彦ホームタウンコンサート」と「おいでなんしょ寄席」を共催している。ホームタウンコンサートは、飯田市出身の世界的音楽プロデューサーである萩元晴彦氏による「生まれ故郷の飯田で、ふるさとも一流の音楽をと、国際的水準の音楽家による演奏会を定期的に開催したい。」という趣旨に大いに賛同し、飯田信用金庫、飯田文化会館、実行委員会が共催で開催している室内楽コンサート。おいでなんしょ寄席は、飯田で質の高い落語を定期的に鑑賞できる市民落語鑑賞会として、飯田市出身の橋左近師匠が企画・制作し、実行委員会と飯田文化会館が共催で開催している。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1. 第14回 萩元晴彦ホームタウンコンサート メナヘム・プレスラー&ウェールズ弦楽四重奏団 2. 市民落語鑑賞会「第34回おいでなんしょ寄席」 楽太郎改メ六代目 三遊亭円楽 襲名記念公演 出演者:三遊亭円楽、三遊亭好楽、三遊亭圓橋、三遊亭兼好	①鑑賞者数(人) ②実行委員数	1. ①333人 ②19人 2. ①1,190人 ②9人
23年度実施計画	1. 第15回 萩元晴彦ホームタウンコンサート 2. 市民落語鑑賞会「第35回おいでなんしょ寄席」	①鑑賞者数(人) ②実行委員数	1. ① ② 2. ① ②

3 事業コスト

事業費	特定財源 国庫支出金 県支出金 起債 その他 一般財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		計(A)	0	0	0	
	正規職員所要時間			300		
	臨時職員等所要時間			40		
	人件費計(B)			1,116		
	トータルコスト A+B			1,116		

4 事業に対する市民や議会の意見

ホームタウンコンサートは、萩元晴彦氏の遺志を継いだ世界レベルの演奏者によるコンサートであり、市内外に高い評価を得ている。今後、このコンサートを継続的に実施することにより、クラシック音楽(特に室内楽)に関心を持ち、親しむ市民を少しずつ増やしていくことが必要である。おいでなんしょ寄席は、飯田市出身の橋左近師匠の企画により、東西の大御所落語家が数多く来飯、出演しており、全国でも屈指の地方寄席として、斬家からも一目を置かれている。この寄席を楽しみにしている市民も多い。また、このおいでなんしょ寄席の影響もあり、市民自らの企画・運営による落語鑑賞会も数多く開催されるなど波及効果も大きい。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①市民がいつでも誰でもどこでも気軽に文化芸術に親しむことが出来るようにする。②市民が活動を通じて文化活動を主体的に担うことが出来るようにする。	施策の成果指標又はムトス指標	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(%・減らす) 文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数(人)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	市民主体の実行委員会が萩元晴彦ホームタウンコンサート、おいでなんしょ寄席を開催することにより、市民が文化芸術に親しむことができる機会を提供してきた。また、実行委員会を組織して運営を行うことにより、市民が主体的に文化活動を担ってきた。		
	後期に向けた課題	引き続き、市民の主体的な文化活動を共催することにより、市民が文化芸術に親しむ機会を提供すると共に、主体的に文化芸術活動を担えるように支援する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	実行委員が積極的に事業の広報、宣伝を行うことにより、鑑賞する市民の数を増やしている。		
	後期に向けた課題	引き続き、実行委員を通じた広報宣伝活動を積極的に展開する。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	広報宣伝に無駄が出ないように工夫してきた。		
	後期に向けた課題	引き続きコスト削減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者は鑑賞者であり、入場料を負担している。入場料は鑑賞の対価であり、その価値も踏まえ、他の事業との均衡も考慮して決定しているため適切である。市は共催者として、施設使用料の減免を行っているが、市民主体の実行委員会が安定的かつ継続的に事業運営するための支援であり適切である。また事務局として、出演者の調整と実行委員会事務を担っているが、実行委員会が主体的に事業を企画運営するための必要最小限の支援であり適切である。		
	後期に向けた課題	常に適切な受益者負担となるよう実行委員会での検討を継続する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体者は各事業の実行委員、テレビマンユニオン、橘左近師匠である。実行委員は、事業の企画、チケット販売、当日の会場運営を担っている。テレビマンユニオンと橘左近師匠は、実行委員会への出演者の紹介と調整を担っている。 ②事務局として、出演者との調整など円滑に事業が実施できるよう進行管理を行っている。		
	後期に向けた課題	さらに多くの市民が実行委員として主体的な役割を担えるように働きかけていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	市民の主体的な文化芸術活動を市が共催し、円滑に進められるように支援することにより、市民が文化芸術に親しむ機会が充実している。		
	後期に向けた課題	市民の主体的な取組みの意義と成果を広くPRし、現在実施している事業だけではなく、多くの市民が主体的に文化芸術活動を企画立案実施できるように働きかけていく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	---	--